

第4回 DBJ 女性新ビジネスプランコンペティション

ファイナリスト 一覧

(敬称略)



DBJ 女性起業大賞

やじま りか
矢島 里佳

東京都

伝統産業でベビー・キッズ用品に
イノベーションを起こす!

株式会社和える
代表取締役



たい
鯛 かおる

兵庫県

真空フライ技術のパイオニアとして、
日本の農業を救う
~農工商連携×真空フライ食品マーケット
創造~

株式会社アトラステクノサービス
代表取締役



DBJ 女性起業優秀賞

ひび の よし え
日比野 好恵

千葉県

デザイン心理学に基づいた特許技術
によるコンサルティングサービス

株式会社
BBSTONE デザイン心理学研究所
代表取締役



たか はし よう こ
高橋 陽子

神奈川県

障がい者の新たな職域拡大を「ICT治具」
で実現 ~川崎発!日本、そして世界へ!~
障がい者自立(納税者)×産業発展×雇用
創出×福祉財源圧縮×子ども支援

ダンウェイ株式会社
代表取締役



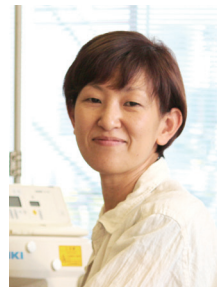
DBJ 女性起業地域みらい賞

つば うち ち か
坪内 知佳

山口県

漁師の元気が繋ぐ、
日本の美味しい!美しい!を未来へ
~50年後の誇れる故郷の存続を目指して~

株式会社 GHIBLI
代表取締役



くり す ひろ み
栗栖 弘美

広島県

都市型小規模縫製工場による縫製業界の革新
「若き縫製従事者の育成とデザイナーの
支援に必要な都市型小規模縫製工場の
ビジネスモデルを広島で確立!」

kurisumade
代表



なり た ゆり
成田 由里

石川県

『簡単・美味しい・身体にいい』発酵食
を活用して、忙しい現代人の食生活を
改善する体験型プロジェクト「発酵食
大学」®の運営

株式会社ウーマンスタイル
代表取締役



はら だ
原田 さやか

静岡県

一きこりがつなぐプラットフォームビジネスー
林業を行いながら、「きこりと子育て」をテーマ
にした3本柱事業で街と山村をつなぐ

株式会社玉川きこり社
代表取締役



あお の さと み
青野 里美

宮城県

障がい児支援~障がい者就労支援
療育から就労までを一貫して行うことで、
障がいを持った方が自立できる基盤を創り、
安心して自分らしく生活できる社会を創造する

特定非営利活動法人ひよこ会
理事長



こう だ けい こ
甲田 恵子

神奈川県

多企業多団体と連携したリアルな地域
交流の場とネットの仕組み「子育てシェア」
を並び、誰もが思い通りに社会参画できる
知人間共助インフラを創る!

株式会社AsMama
代表取締役社長

ファイナリスト紹介 (敬称略)

DBJ 女性起業大賞

や じ ま り か
矢島 里佳

東京都

株式会社和える

代表取締役



【略歴】

慶應義塾大学法学部政治学部卒業。2013年3月、慶應義塾大学院政策・メディア研究科修士課程卒業。大学4年の時に「21世紀の子どもたちに、日本の伝統をつなげたい」という想いから、2011年3月株式会社和えるを設立。幼少期から職人の手仕事に触れられる環境を創出すべく、子どもたちのための日用品を、日本全国の職人と共につくる“0 から6歳の伝統ブランド aeru”を、2012年3月に立ち上げる。2013年末、世界経済フォーラム（ダボス会議）のヤング・グローバル・シェイパーズに選出される。



事業 内容

伝統産業でベビー・キッズ用品に イノベーションを起こす!

私たちは「次世代に日本の伝統をつなぐこと」を目的とし、全国の職人と共に、赤ちゃん・子ども向けの日用品のオリジナルブランド“0 から6歳の伝統ブランド aeru”を展開している。日本の伝統産業の技術を最大限に生かしながら、現代の生活に馴染み、子どもが大人に成長した未来にもなお新鮮に感じられるようなデザインの商品づくりをしている。

子育ての分野においては、安心安全で機能的な商品が重視されるが、aeruの商品は自然由来の原料を使い、職人の手作りにこだわり、なおかつ機能性のあるデザインを採用している。伝統産業の技術でつくりあげたホンモノの商品を、日常の中で使うことで、子どもたちの豊かな感性を磨くお手伝いをする。

継続的に現代の生活の中で伝統産業品が使われる環境と、伝統産業の職人の後継者育成・地域雇用の創出までを一環とした、次世代に伝統をつなげる生態系の創出を目指す。



DBJ 女性起業優秀賞

ひびのよしえ
日比野 好恵
千葉県

株式会社 BBSTONE デザイン心理学研究所
代表取締役



【略歴】

福岡生まれ。横浜国立大学教育学部心理学科卒業。外資系企業勤務等を経て起業。

“技術の進歩が弱者を置き去りにしてはいないか”との思いから、株式会社 BBSTONE デザイン心理学研究所を設立。2011年3月、千葉大学工学部初のベンチャーとして認定される。大学の研究を世の中に還元し、ビジネスとして息を吹き込むという新たなロールモデルを構築。



事業
内容

デザイン心理学に基づいた特許技術による
コンサルティングサービス

人間の行動、言葉で語れない部分を、実験心理学の手法を応用し紐解いていく、今までにない科学的なアプローチのコンサルティングを行っている。その手法で特許を取得している千葉大学工学部デザイン心理学研究室発のベンチャー。

心理学的視点を用いることにより、従来のアンケートや主観的な評価では得られなかった、消費者の本音、嗜好、意思決定のプロセスが明らかになり、デザインの見易さ、わかりやすさ、印象だけではなく、企業が抱える様々な問題も、独自の実験手法により解決している。その顧客の9割以上が一部上場企業であり、金融機関、官公庁、大手メーカーなど多岐にわたる。

＜受賞歴等＞

第9回ベンチャーカップ千葉準グランプリ、公益財団法人ひまわりベンチャー育成基金助成事業認定
千葉元気印対象奨励賞、千葉大学工学部地域社会貢献賞受賞、グッドデザイン賞、国際ユニヴァーサルデザイン協議会アワード受賞、2014年日本パッケージングコンテスト医薬品医療用具包装部門賞受賞

従来のデザイン
感性
曖昧
アンケート調査

VS

デザインに科学の裏付けを

BB STONE
実験心理学+デザイン
特許取得の実験手法
膨大なデータベース

この部分が、弊社独自のサービスです。



ファイナリスト紹介 (敬称略)

DBJ 女性起業地域みらい賞

つば うち ち か
坪内 知佳

山口県

株式会社 GHIBLI

代表取締役



【略歴】

1986年、福井県生まれ。名古屋外国語大学を中退後、翻訳・コンサルティング事務所を立ち上げ、企業を対象にした翻訳とコンサルティング業務に従事。山口県萩市へ移住し、全く知見の無かった漁業と出会い 2011年、任意団体としての「萩大島船団丸」の発足を手掛ける。2012年、経営が苦手の漁師たちに代わり、代表に就任。2014年4月、事業の拡大に向け、株式会社 GHIBLI を設立。日経 Woman of the year2014 キャリアクリエイティブ賞を受賞。2015年より福島県いわき市の浜の六次産業化にも着手。

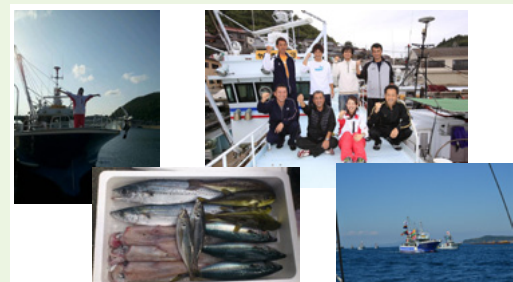
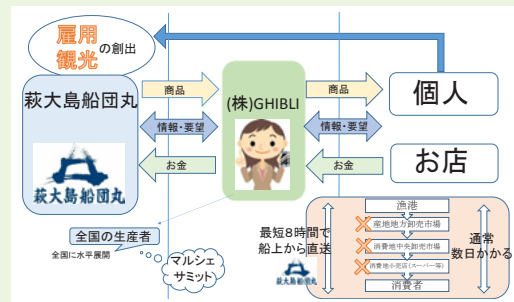


事業内容

漁師の元気が繋ぐ、日本の美味しい!美しい!を未来へ ~50年後の誇れる故郷の存続を目指して~

近年続く劇的な漁獲量の減少、操業経費の高騰、後継者不足など明るいニュースのない漁業界。水産業の島、萩大島では漁獲量が毎年激減。水揚げ約7割を占めている旋網漁業の経営を圧迫しており、人口減少も止まらない。後継者もいない、産業もない。そんな島の元気を取り戻すため、漁師の意識改革、既存の流通改善等を行いながら、漁船操業を「家業から企業へ」と、第六次産業化による地方創生を達成すべく取り組む。

SNSを利用し、従来繋がることのなかった漁船と板場を繋ぎ、リアルタイムで漁場の情報を配信する。漁獲と共に、鮮魚の販売先が決まり全国へ新鮮な魚が届けられる。魚は市場を経由せず、最短ルートで配送されるため、鮮度の良さはもちろん、漁業者自らが価格決定権を持って板場の料理人たちと交渉することで、供給地と消費地が密接に繋がリ、入り口（漁師）から出口（飲食店）まで想いを一つに、よりハイクオリティな食を提供することが可能になる。



なり た ゆ り
成田 由里
石川県

株式会社ウーマンスタイル
代表取締役



【略歴】

京都産業大学卒業後、株式会社オリックス入社。リース、金融商品の営業全般に携わる。出産を機に、専業主婦に。その後、子育てと仕事を両立させるため、女性マーケティング会社で契約ディレクターとして在宅業務を経験。2008年に株式会社ウーマンスタイルを創立、女性視点でマーケティングをサポートする。自身の在宅ワーク経験から、女性の多様な働き方を支援し、その仕組化に取り組み、自社のワークライフバランスを向上させ、女性の働きやすい環境づくりを目指している。



事業
内容

『簡単・美味しい・身体にいい』発酵食を活用して、忙しい現代人の食生活を改善する体験型プロジェクト「発酵食大学」®の運営

石川県は、発酵食王国と言われるほど伝統の発酵食品が豊富。しかし、蔵元はその規模の小ささ情報発信力の低さに加え洋食化等により衰退傾向にあった。一方、家族の食を預かる働く主婦にとって、毎日の食事の準備は日々の課題。インスタントや惣菜などカロリー過多でバランスが悪い食生活を改善したいと願う女性は多い。そこで、石川の老舗蔵元、石川県立大学、麹料理研究家などと連携し、発酵食の「知識」「活用」「体験」ができる場として発酵食大学を設立。「発酵食大学」®は、石川県の魅力を発酵というキーワードで繋ぎ、全国・海外へ発信することで、地域活性につなげ、忙しい現代人には、発酵食の活用で「美味しく、栄養価が高く、簡単に」食事の準備ができるという価値を提供する。地元の人が学ぶ大学、県外から集中して学ぶ大学院、来県できない人には、インターネットを活用した有料コンテンツ配信・動画で蔵元見学ができる通信部の3部問から構成される。受講生が全国で発酵食の良さを発信する伝道師になり、多くの人が手軽に健康的な暮らしを実現できる社会をつくる。

伝統の発酵食が息づく石川県から、地域の魅力と共に発酵食の素晴らしさを全国に発信する体験型プログラム



地域の中小企業と、発酵のプロたちが結集し、発酵食を学ぶ場を協力的にサポート

石川県を代表する発酵食のスペシャリスト



石川県を代表する老舗現場のプロ



ファイナリスト紹介 (敬称略)

あお の さと み
青野 里美
 宮城県

特定非営利活動法人ひよこ会
 理事長



【略歴】

宮城県岩沼市出身。高校卒業後、東京での生活をへて 2000 年帰郷。東京での経験から自分の子どもを安心して預けられる保育園を造りたいという想いを抱き、同年 11 月保育ルーム「ひよこ園」を開園し子育て支援の道へ。保育園運営の中で感じた集団へなじめない子どもたちが抱える発達障害への支援のため、2010 年特定非営利活動法人ひよこ会を設立し、障がい児・者支援とその家族支援を始める。

(株式会社ひよこ会 代表取締役／特定非営利活動法人ひよこ会 理事長
 ／株式会社あどばんす 代表取締役／岩沼市次世代育成支援協議会副会長／岩沼市子ども・子育て会議副委員長)

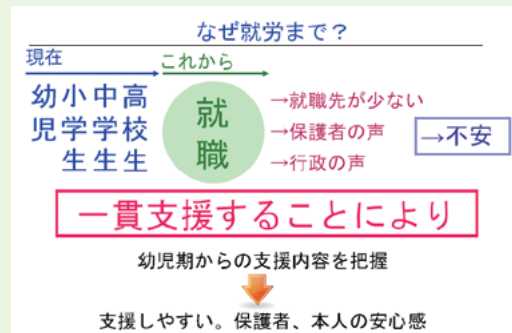


事業内容

障がい児支援～障がい者就労支援 療育から就労までを一貫して行うことで、障がいを持った方が自立できる基盤を創り、安心して自分らしく生活できる社会を創造する

社会から孤立しがちな発達障がい児を持つ保護者の支援と児童本人の自立を促すため、2010年秋に特定非営利活動法人ひよこ会を設立し、現在、グループ全体で子育て支援施設、障がい児・者支援施設16施設を運営している。

施設は幼児期からの母子分離の徹底と保護者支援、充実した発達障がい児支援カリキュラムとスタッフ教育を特徴としており、障がいを持った子どもを3歳から18歳までの間一貫支援することで、幼児期からの子どもの状態や支援内容・経過を把握でき、子ども本人・保護者の支持・安心を得ている。2015年夏には新たに中高校生を対象とした障がい児通所支援施設を開所し、2015年中には障がい者の収入と働き先の確保・社会進出のために、6次産業化での就労支援事業を展開する。また、多様化する社会ニーズへの対応を図るため、今後はFC方式により全国に自分たちの支援ノウハウを基盤とした事業モデルを普及させていく。



たい
鯛 かおる
兵庫県

株式会社アトラステクノサービス
代表取締役



【略歴】

短大を卒業後、バブル崩壊、阪神淡路大震災で勤務先が経営危機に陥る。一女子社員であったが、MBOで営業権を取得し1997年に起業・創業。技術開発を得意とする濾過装置メーカーとして、国内外の食品業界や機械工業界での品質向上に貢献する事業を行う。同時に真空フライ技術と、栄養士、フードコーディネーター、認定農家等の食のスキルを融合させ、特産加工品の商品開発、加工技術の教育事業も行う。また、兵庫県内の農商工連携の原動力となり、丹波の黒豆等の地域品の真空フライ加工商品化を行う。

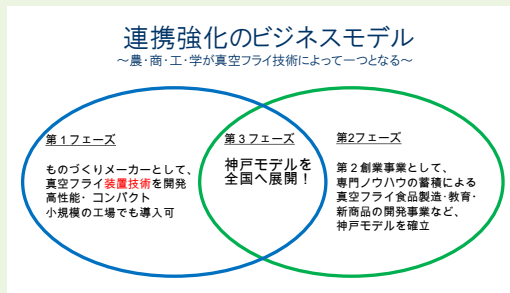


**事業
内容**

**真空フライ技術のパイオニアとして、日本の農業を救う
～農商工連携 × 真空フライ食品マーケット創造～**

商品の品質にこだわる濾過装置メーカーとして、国内未普及の真空フライ加工技術を15年以上イノベーション。開発した真空フライ装置は大手メーカーだけでなく、中・小事業者用に小型化を行う。製品は従来の真空フライチップスより残留油分（脂質）が少なく、健康指向である。複数の県立食品加工技術センターに正式採用され、また残留栄養価の高さについては兵庫県立大学との共同研究で学会発表を行う。当社は「真空フライ技術」のパイオニアとして、機械メーカーから食品メーカーへ第2創業期を迎える。

兵庫・神戸の生産者と連携し特産品の真空フライ食品を開発。生産者、JA、地方自治体、大学等と一体となり農商工学連携を組む。地域の特産品を高品質の真空フライ食品に加工し高付加価値品とし全国・世界に常温物流で流通させる。また、当社が神戸モデルとして確立したこの連携ビジネスモデルを「ご当地メーカー」と名付け、今後全国へ展開する。



地域の農産物等を真空フライ加工し特産物を製造・販売
「ご当地メーカー」の確立



当社は、「ご当地メーカー」の第1弾開発商品として、「神戸市西区の太秋柿」「丹波の黒大豆」を発売
兵庫県/神戸市の農政部・JA・神戸商工会議所・兵庫県立大学などとの連携を行っている



ファイナリスト紹介 (敬称略)

たか はし よう こ
高橋 陽子
神奈川県

ダンウェイ株式会社
代表取締役



【略歴】

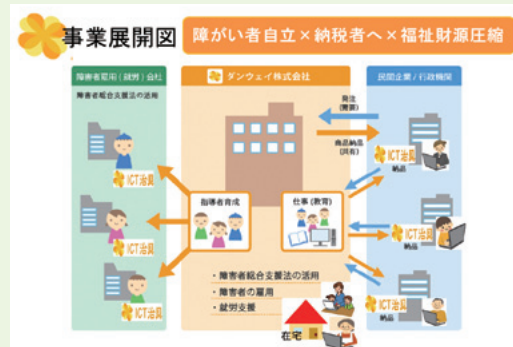
大学卒業後、数社の企業総務・人事を務めたが、息子の障害をきっかけに、2010年に退職して社会保険労務士事務所を開業。障がい者を取り巻く大きな社会的課題に気づき、課題解決のため、2011年にダンウェイ株式会社を設立。障がい者就労支援を柱に、独自の評価制度を構築。その結果、障がい者雇用決定率135%、定着率90%を超え、国内トップクラスの実績を出す。さらにインテル株式会社と協働し、「ICT治具」を開発。中小企業支援と同時に障がい者の新たな職域拡大を目指す。またICT治具教育パッケージを教育機関へ提供し、子どもたちの未来を育てることに寄与。



事業内容

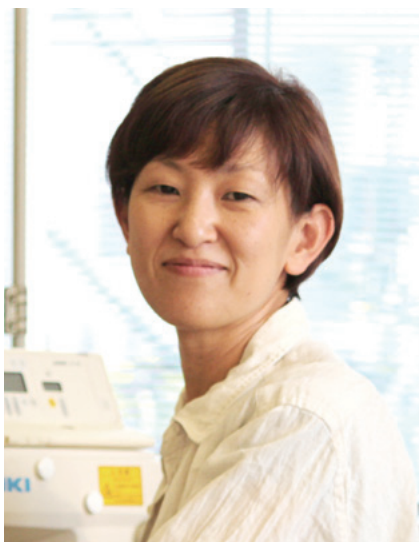
障がい者の新たな職域拡大を「ICT治具」で実現 ~川崎発!日本、そして世界へ!~
障がい者自立(納税者)×産業発展×雇用創出×福祉財源圧縮×子ども支援

社会的課題解決のため、知的障がいの方でも制作ができるホームページ制作ソフト「ICT治具」を、インテル株式会社との協働により開発。自社の障がい者就労支援事業にICT治具訓練カリキュラムを取り入れ、情報発信の苦手な中小企業のホームページ制作を受託。その後、制作物+ICT治具の納品と同時に、ICT治具を使用できる障がい者雇用も実現。このように継続的な情報発信を行うことで、中小企業の産業発展+雇用創出を狙う。更に、自社のノウハウをパートナー制度により広げ、障がい者職域拡大の発展を狙う。ICT治具は数字や色をキーとする簡単なワークフロー、分業が可能なクラウドを採用。また、コミュニケーション支援ツールとして、教育機関に対しICT治具教育パッケージ(ソフト+テキスト+インストラクト)を提供し、子どもたちの「認め合い、課題解決する心」を育てる。その結果、世界中に多くのサポーターを増やし、多様な人が認め合う共生社会を実現する。



くり す ひろ み
栗栖 弘美
 広島県

kurisumade
 代表



【略歴】

広島服飾専門学校を卒業後、アパレル会社数社に勤務し、パタンナーとして独立。同時に2000年4月より広島ファッション専門学校の講師として現在も指導を継続中。2012年4月にアトリエ兼ショップ&ワークショップ教室機能を有する店舗「Line」を広島市南区に開業。その後、2014年9月に服飾の創作活動と縫製工場機能を有する街中工場として、新たに「kurisumade factory」を広島市中区に開設。縫製業界の地位向上に向けた革新に取り組んでいる。



事業内容

都市型小規模縫製工場による縫製業界の革新 「若き縫製従事者の育成とデザイナーの支援に必要な都市型小規模縫製工場のビジネスモデルを広島で確立！」

国内で縫製されている服飾製品の生産は、大手メーカー系の郊外型大規模縫製工場か、1着程度のオーダーメイド中心の内職対応に2極化。多品種小ロット生産に対応できる小規模縫製工場が不足し、インディーズブランドのデザイナーが新たに生み出す縫製関連市場の成長の足かせになっている。一方、縫製業界の就職先は郊外にある大手メーカー系の縫製工場に限られ、都市型志向の若者の多くが敬遠するため、縫製従事者が定着せず育成困難な環境となっている。

それら問題の解決のため、「都市型小規模縫製工場のビジネスモデル」を繊維業が盛んな地域性を有する“広島”で確立させ、若き縫製従事者の育成と全国のデザイナー等のプロダクト支援で縫製業界を革新していく。

縫製業界の現状 インディーズデザイナーのニーズに対応できる工場が絶対的に不足

	郊外 (立地特性)	街中
大 (生産能力)	大手メーカー系 大ロット(約千着以上)生産 2極化により多くの事業者が淘汰され、 この領域には事業者が殆ど存在しない	当店 小ロット (50着程度)
小	内職者・個人(単品小ロット受注生産 オーダーメイドやサンプル等)	



ファイナリスト紹介 (敬称略)

はら だ
原田 さやか
静岡県

株式会社玉川きこり社
代表取締役



【略歴】

静岡大学農学部森林資源科学科卒業。高校3年生の夏にロベール・ドアノーの写真に魅了され、大学在学中から写真スタジオに勤務。2007年から静岡県中部エリアで配布される地域情報誌『すろーらいふ』のカメラマンとして撮影・企画・編集に携わり、5000件以上のお店や企業を取材。2008年玉川と出会い、自然と共生する暮らしに感動し、その魅力を伝えるため「安倍奥の会」設立。『玉川新聞』を創刊し、イベントを多数開催。街と山村がつながり、心豊かな日本をつくりたいと2014年2月に退職し、同年3月株式会社玉川きこり社を設立。

TAMAKAWA KICORI INC.

玉川きこり社

事業 内容

— きこりがつなぐプラットフォームビジネス — 林業を行いながら、「きこりと子育て」をテーマにした3本柱事業で街と山村をつなぐ

かつて林業で栄えていた旧玉川村は「きこり」が山村の文化を築いてきたが、今は脈々と受け継がれてきた自然と共生する暮らしは残りつつも、過疎化・高齢化は深刻な状況にある。一方、自然が遠くなってしまった市街地では自然と触れ合う子育てへの関心が高まっている。

玉川きこり社は林業を行いつつ、「きこりと子育て」をテーマとした「きこりと家づくり」事業、「きこりと森の製品販売」事業、「きこりじゅく」事業の3本柱事業で、街と山村をつなぐビジネスを展開。「きこりと家づくり」事業では、家を建てた後に街に住みながら田舎暮らしができる「田舎暮らしサービス」を行う。サービスは玉川住民、コラボする企業、玉川で起業するローカルベンチャーと共に構築し、顧客に向けて多様性のあるサービスを提供。山村の一大コミュニティでプラットフォームビジネスを展開する。街と身近な山村がつながる仕組みを全国に広め、自然を身近に感じながら心豊かに生きていける日本を目指す。

